

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54001001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	中国文学の世界[P4A,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	チュウゴクブンガクノセカイ		
英文授業科目名	World of Chinese Literature		
担当教員名	荒見 泰史		
担当教員名 (フリガナ)	アラミ ヒロシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K108
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード			
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ：文化の交流と多様性		
学習の成果			
授業の目標・概要等	<p>漢語で表記された中国文学の作品は、経年変化が少ないために長いあいだ親しまれ続け、三千年もの間に膨大な作品数を蓄積しながら今日にまで継承されてきている。そうした作品は同じ漢字を使用するアジア諸国へも深く浸透し、各国の文化へも大きな影響を及ぼしてきた。たとえば、日本においても漢字とともに多くの作品が流入し、古くから漢語の作品が伝えられていることは言うまでもないであろう。ただ、この漢語で表記された作品を鑑賞する場合、中国から見れば外国語話者である我々日本人が作品の真意を汲み取ろうとすれば、漢語をよほど正確に理解しなければならないことについて、注意深く考える者はあまり多くないのではないだろうか。</p> <p>本講義では、このような中国の文学作品をより楽しむために、漢語の特徴や日本語との違いから議論を始め、中国人がどのように文学作品と接してきたか、中国文学がもっている本当の面白さはいったいどのようなものか、そしてこれらの作品がどのように継承されてきたのかという問題について考えていきたいと思う。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス  第2回 漢語の言語的特徴 (漢語の歴史的継承)  第3回 漢語の言語的特徴 (言語の類型論より見た漢語)  第4回 漢語の言語的特徴 (漢字)  第5回 漢語の言語的特徴 (漢語の認知構造)  第6回 漢語の言語的特徴 (漢語の複合語)  第7回 漢語の言語的特徴 (和製漢語とその定着)  第8回 漢語による文学表現 (孤立語と文学表現)  第9回 漢語による文学表現 (音節の豊富さを利用した文学表現)  第10回 漢語による文学表現 (音節の持つ豊富なイメージと文学表現)  第11回 漢語による文学表現 (漢語による文学作品の隠語表現)  第12回 漢語文学の継承 (漢語文学と数千年にわたる継承)  第13回 漢語文学の継承 (漢語文学の継承と記録媒体)  第14回 漢語文学の継承 (口頭による継承)  第15回 漢語文学の継承 (筆写による継承)</p> <p>学期末に試験を実施する。</p>		
教科書・参考書等	授業用冊子『漢語文化論』を教材とする。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 配付資料, 音声教材, 映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	<p>第1回 授業時間中に指示する。  第2回 授業時間中に指示する。  第3回 授業時間中に指示する。  第4回 授業時間中に指示する。  第5回 授業時間中に指示する。  第6回 授業時間中に指示する。  第7回 授業時間中に指示する。  第8回 授業時間中に指示する。  第9回 授業時間中に指示する。  第10回 授業時間中に指示する。</p>		

予習・復習への アドバイス	第11回 授業時間中に指示する。 第12回 授業時間中に指示する。 第13回 授業時間中に指示する。 第14回 授業時間中に指示する。 第15回 授業時間中に指示する。
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	授業への積極性40%程度。 期末試験60%程度。
メッセージ	
その他	【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。          回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。          なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54002001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	ヨーロッパ文学の世界[P4B,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	ヨーロッパブンガクノセカイ		
英文授業科目名	World of European Literature		
担当教員名	島谷 謙		
担当教員名 (フリガナ)	シマタニ ケン		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K211
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	文化の多様性、異文化の理解、芸術、自然・風土、宗教、生と死、人間関係		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ：文化の交流と多様性 文学をととしてヨーロッパ固有の世界観・自然観にふれることにより、文化の多様性を学び、日本の独自性を意識しつつ、異文化理解を深めます。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	主にドイツ語圏（ドイツのほかオーストリア、スイスをふくむ）文学を十八世紀から二十世紀にいたる歴史の流れにそって辿ります。背景となる社会や文化にも言及します。各時代の代表的作品をとりあげ、その主題や描かれた人間像を、作品にあらわれた社会、歴史、文化、宗教、思想等から多面的に考察します。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 異文化理解のために</p> <p>第3回 古典主義の時代</p> <p>第4回 古典主義の時代</p> <p>第5回 シラー</p> <p>第6回 ロマン派の時代とE.T.A.ホフマン</p> <p>第7回 ゲーテの青春</p> <p>第8回 シュティフターと自然</p> <p>第9回 トーマス・マンの自画像</p> <p>第10回 ヘルマン・ヘッセ</p> <p>第11回 カフカ</p> <p>第12回 カフカ</p> <p>第13回 20世紀</p> <p>第14回 20世紀</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>ドイツ文学・文化に関して、教員が数名で担当します。 上の授業計画はおおよその予定です。担当順や内容は多少変更があります。 4月に予定表を配布します。</p>		
教科書・参考書等	<p>手塚・神品：ドイツ文学案内（岩波文庫）</p> <p>藤本ほか：ドイツ文学史（東京大学出版会）</p> <p>池内編：世界の歴史と文化（新潮社）</p> <p>柴田編：はじめて学ぶドイツ文学史（ミネルヴァ書房）</p> <p>高橋：ドイツ人のこころ（岩波新書）</p> <p>島谷：ナチスと闘った劇作家たち（九州大学出版会）</p> <p>島谷：日本を愛したドイツ人（広島大学出版会）</p> <p>その他、各担当者が挙げる参考文献</p>		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、映像		
予習・復習への アドバイス	担当者がとりあげる作品を読んでみてください。 参考文献を利用すると、より理解が深まるでしょう。		
履修上の注意 受講条件等	出席が大事です。毎回、講義の終わりに感想を書いてもらう予定です。 受講人数が多い場合は抽選等を行います。		
成績評価の基準等	レポート70%程度、平常点30%程度により評価。 本を数冊読んで、しっかりしたレポートを複数書いてもらいます。		

メッセージ	深い心情と思想をそなえたドイツ文学の世界の魅力に触れよう。 本好きの人、文学に関心のある人の積極的な受講を期待します。
その他	【受講希望者が150人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54004001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	文化人類学の世界[P4B,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	ブンカジンルイガクノセカイ		
英文授業科目名	World of Cultural Anthropology		
担当教員名	長坂 格		
担当教員名 (フリガナ)	ナガサカ イタル		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3 時限, 4 時限	講義室	総K209
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、ディスカッション
単位	2	週時間	2
対象学生	1		
授業のキーワード	異文化理解、相対化、フィールドワーク、東南アジア、フィリピン		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第4パッケージ:文化の交流と多様性		
授業の目標・概要等	主として担当者による文化人類学的フィールドワーク（現地調査）に依拠し、東南アジア、特にフィリピンの社会・文化を紹介・検討することを通して、文化人類学的視点・方法を論じる。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 文化人類学的視点・方法とは？ 1</p> <p>第3回 文化人類学的視点・方法とは？ 2</p> <p>第4回 フィールドワーク</p> <p>第5回 フィールドとしての東南アジア</p> <p>第6回 フィールドとしてのフィリピン</p> <p>第7回 親族</p> <p>第8回 家族</p> <p>第9回 ジェンダー</p> <p>第10回 精霊信仰</p> <p>第11回 カトリシズム</p> <p>第12回 海外移住の拡大 1</p> <p>第13回 海外移住の拡大 2</p> <p>第14回 海外移住の拡大 3</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>期末試験をおこなう他、適宜小レポートなど課題を出す予定である。</p>		
教科書・参考書等	教科書は用いない。参考書等は授業中に指示する。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像（ビデオ/PC/その他画像資料）、WebCT		
予習・復習への アドバイス	配布資料や参考図書などでの予習・復習を授業中に指示する。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	授業へのコメント等提出課題（30%）と期末試験（70%）で評価する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】		
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54005001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	世界の中の日本語・日本文化[P4A,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	セカイノナカノニホンゴ・ニホンブンカ		
英文授業科目名	Japanese Language and Culture in the Global Context		
担当教員名	永田 良太		
担当教員名 (フリガナ)	ナガタ リョウタ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	教K108
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心。パワーポイントスライド、ビデオ、音声等を使用する。
単位	2	週時間	2
対象学生	1年次生		
授業のキーワード	異文化交流, 異文化の共生, 国際化, アジアの中の日本, 日本語教育		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中で この授業の位置づけ	第4パッケージ：文化の交流と多様性 「国際化」の時代に異文化が共生していくために必要な自他の文化についての認識のあり方について学ぶ。		
学習の成果	異文化を理解するということは、自らの言語・文化を「世界」という文脈の中で相対化することと表裏をなすということ を認識するとともに、外国人にとっての日本語・日本文化について、文化・教育・言語の面から理解する。		
授業の目標・概要等	「国際人」の基礎的教養として、異文化交流をめぐる諸問題や日本語・日本文化を学ぶ人々の現状、日本語という言語に ついての知識を身につける。さらに、習得した知識に基づき、日本語・日本文化を内外の眼から見る訓練をする。		
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（永田良太）</p> <p>第一部 異文化交流をめぐる諸問題</p> <p>第2回：近代世界と「学知」の問題 - 「国語」の成立 - （中村春作）</p> <p>第3回：近代日本美術に現れたアジア像（西原大輔）</p> <p>第4回：日本における身体の近代化（西村大志）</p> <p>第5回：異文化接触の光と影（倉地暁美）</p> <p>第二部 日本語・日本文化を学ぶ人々</p> <p>第6回：外国語学習に成功する人しない人（畑佐由紀子）</p> <p>第7回：日本語を母語とする子どもたちが第二言語を学ぶ時の心理（松見法男）</p> <p>第8回：学習者の日本語に対する日本人の評価（渡部倫子）</p> <p>第9回：外国人児童・生徒に対する支援（永田良太）</p> <p>第10回：中間試験</p> <p>第三部 「日本語」という言語</p> <p>第11回：学習者から見た日本語文法（白川博之）</p> <p>第12回：日本語の音の世界（高橋恵利子）</p> <p>第13回：品詞のバランスから日本語と英語の文法を考える（柳澤浩哉）</p> <p>第14回：類型論・対照言語学の観点から見た日本語（酒井弘）</p> <p>第15回：期末試験</p>		
教科書・参考書等	予習資料以外のテキストは各回の授業で必要に応じて紹介する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料、音声、映像（ビデオおよびパワーポイントスライド）		
予習・復習への アドバイス	第一部、第二部、第三部の開始時のそれぞれ1週前の授業で、予習用の資料を配布する。各自熟読し、問題意識をもって授業 に臨むこと。また、授業当日には、授業内容に関するハンドアウトを配布する。参考書は各回の授業で必要に応じて紹介す る。それらをふまえてしっかりと復習し、各回の内容の連関について自分なりに整理しておくこと。		
履修上の注意 受講条件等	受講希望者多数の場合、事務局で抽選を行う。結果は「もみじ」に登録されたアドレスに送る。抽選に外れて受講できなく なる学生が出ないように、日本語・日本文化に対して学ぶ意欲を持つ者のみ履修すること。		
成績評価の基準等	出席（小テスト）40パーセント、中間試験30パーセント、期末試験60パーセントの割合で評価する。 毎時間、小テストを行い、その結果を出席点とする。授業内容を理解していることが出席点の条件となるので注意すること 。 中間試験および期末試験は論述問題である（持ち込み不可）。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。  
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。  
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54007001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	日本の歴史と文化[P4B,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	ニホンノレキシトブンカ		
英文授業科目名	Japanese Culture and History		
担当教員名	佐竹 昭		
担当教員名 (フリガナ)	サタケ アキラ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K107
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	異文化交流, アジアのなかの日本, 国際化, 外交史, 歴史意識		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第4パッケージ:文化の交流と多様性 日本文化の原型が形成されてきた時期を中心に, アジア・日本をとりまく国際関係の歩み, さらに異文化交流の果たした役割を検討します。		
授業の目標・概要等	国際関係の歩みのなかで, 日本文化の原型が形成された古代を主たる素材に, 文献や遺跡・遺物などの資料をもとにどのように歴史像を描いていくのか, その考え方や方法について学ぶ。また現在にとっての古代の意味, 歴史意識についても考える。		
授業計画	第1回 講義のねらい・内容について 第2回 1. 日本列島の形成と日本人のルーツをめぐって (1)日本列島の形成と人々の暮らし 第3回 (2)稲作の伝来と人々の渡来をどう考えるか 第4回 (3)日本人のルーツをめぐる諸説とその現代的背景 第5回 2. 邪馬台国論争から何を学ぶか (1)魏志倭人伝を読む - 邪馬台国の位置をめぐって 第6回 (2)魏志の倭人社会観察 1 第7回 (3)魏志の倭人社会観察 2 第8回 3. 古代東アジアの国際関係と倭国・日本 (1)3世紀, 卑弥呼の時代 第9回 (2)5世紀, 倭の五王の時代 第10回 (3)7世紀, 遣隋使・遣唐使の時代 第11回 (4)古代の国際関係とそれが後世に与えた影響を考える 第12回 4. 文化交流の具体例, 仏教文化の受容 第13回 (1)日本文化史の時期区分 第14回 (2)仏教文化展開の具体像 第15回 まとめ		
教科書・参考書等	21世紀の教養『異文化/I・BNKA』2-1ほか随時紹介する。 資料を配布するとともに, スライド等を用いて講義する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, 映像(PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	第1回 歴史の研究に自然科学はどう生かされているか。 第2回 日本の縄文時代の特徴は何か。 第3回 弥生時代の遺跡・遺物にはどのようなものがあるか。 第4回 弥生時代以降, 大陸から多くの渡来人を想定する根拠は何だろうか。 第5回 邪馬台国の位置をめぐってどうして多くの説があるのだろうか。 第6・7回 倭人の生活についての魏志倭人伝の観察はどれくらい正しいか。 第8回 国際関係と国内政治の関係について, 後世の例も含めて考える。 第9回 冊封体制とはどのような国際的枠組みか。 第10・11回倭国・日本と隋・唐との関係はそれまでの時代とどう違うのか。 第12回 日本文化史の時期区分はどのようになされているか。 第13・14回 法隆寺や薬師寺をめぐる諸問題を考えてみよう。 第15回 授業の内容を再整理してみよう。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	定期試験(100%)による。		



メッセージ	
その他	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/asa/">http://home.hiroshima-u.ac.jp/asa/</a> 【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54008001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	アジアの近現代[P4A,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	アジアノキンゲンダイ		
英文授業科目名	Modern History of Asia		
担当教員名	水羽 信男		
担当教員名 (フリガナ)	ミズハ ノブオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K110
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	国民国家、異文化の理解、近代化、アジアの中の日本、ナショナリズム、		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	パッケージ名:文化の交流と多様性 この授業はアジアにおける共生のための課題を歴史的に理解することを目指します。		
学習の成果	学習の成果として期待しているのは、a)国際共生のために必須の基礎的な知識を得る、b)現在のアジアを理解する自分なりの視座を鍛練する、c)歴史的な思考力の育成を目指す、の三点です。		
授業の目標・概要等	現在のアジアを理解するうえでキーとなるのは「国民国家」という概念です。その歴史と現実を理解するために、中国・朝鮮半島における先進資本主義国の侵略と、それに対するナショナリズム運動について、19世紀半ばから20世紀前半までを概観します。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 清朝期における国家と社会</li> <li>3. アヘン戦争(第一次・第二次)と「華夷」観</li> <li>4. 太平天国の乱と清朝の近代化の始まり</li> <li>5. アジアの植民地化と立憲改革の志向</li> <li>6. 義和団事件</li> <li>7. 辛亥革命</li> <li>8. 新文化運動</li> <li>9. 三一運動</li> <li>10. 五四運動</li> <li>11. 北伐</li> <li>12. 一九二〇年代の東アジア</li> <li>13. 国民革命と日本</li> <li>14. 国民政府の成立</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>全ての講義を終えて、期末試験を実施します。その他の課題については、講義のなかで説明します。</p>		
教科書・参考書等	教科書は指定しませんが、講義に関連した写真や地図・史料と授業のポイントを記したプリントを配布します。参考書は、菊池秀明『中国の歴史10 ラストエンペラーと近代中国』(講談社、2005年)など。その他、講義中に適宜紹介します。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料		
予習・復習への アドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義のねらいを自分自身の問題関心から位置づけ直してみてください。</li> <li>2. 中国の前近代の政治構造の特徴について理解しましょう。</li> <li>3. 英国の中国侵略の原因を理解すると共に、「通説」批判の重要性を実感しましょう。</li> <li>4. 民衆の権力への抵抗の要因と実相、そして権力の側の対応について理解しよう。</li> <li>5. 「国民国家」と憲法との関連について、現代日本との比較を通じて考えましょう。</li> <li>6. なぜ「カルト」集団が広範な支持を集めることができたのか、検討してみましょう。</li> <li>7. 革命への様々な評価について考え、改めて「通説」批判の必要性を実感しましょう。</li> <li>8. 儒教批判を展開した当時の青年たちの問題意識を理解しましょう。</li> <li>9. 朝鮮半島の植民地化とそれに対する抵抗の歴史について総合的に理解しましょう。</li> <li>10. 当時の国際的な政治情勢のなかで東アジアのナショナリズムについて考えましょう。</li> <li>11. なぜ北伐軍は破竹の勢いで中国を統一することができたのかを理解しましょう。</li> <li>12. 中国政治の変動の要因を国内情勢だけでなく、国際関係のなかで考えてみましょう。</li> <li>13. 20世紀前半の日本政府と日本人にとって、中国が持った「意味」を検討しましょう。</li> <li>14. 中華民国南京政府の成立の世界史的な意義を理解しましょう。</li> <li>15. 講義全体をまとめて自分にとってどんな意味があったのか、総括してみてください。</li> </ol>		

履修上の注意 受講条件等	特にありません。
成績評価の基準等	主として定期試験により行います。他の評価基準については講義中に説明します。
メッセージ	高等学校で日本史や世界史を学んでいなくても理解できるよう、工夫しています。高等学校とは違う“歴史学”の面白さに触れてみませんか？
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。  
 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。  
 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54009001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	中東・イスラームの世界[P4A,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	チュウトウ・イスラームノセカイ		
英文授業科目名	World of Islam and the Middle East		
担当教員名	吉村 慎太郎		
担当教員名 (フリガナ)	ヨシムラ シンタロウ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K210
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	異文化の理解, イスラーム, 紛争, 近代化, ナショナリズム, 宗教復興		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中で この授業の位置づけ	イスラームの教義と変転する中東の歴史を取り上げ、それが今日的な誤解を孕んだ点を指摘することで、「文化の交流と多様性」というパッケージ科目(群)と密接に関わっている。		
学習の成果	他者認識のあり方、共存システムの歴史とそこでの変容の検討から、同一パッケージ内の科目と関連し、これにより多様な共存カルチャーを模索できる。		
授業の目標・概要等	イスラームの基本的教義・制度・世界観・思想を概説し、併せて19世紀から現代に至る「中東」の成り立ちとそこでの諸問題を講義する。		
授業計画	第1回 ガイダンス；オリエンタリズムと中東・イスラーム、西欧中心史観 第2回 イスラームの成立(1)；ジャーヒリーヤ 第3回 イスラームの成立(2)；布教と迫害 第4回 イスラームの基本的教義(1)；六信五行 第5回 イスラームの基本的教義(2)；六信五行 第6回 イスラームの基本的教義(3)；世界観、タウヒード 第7回 オスマン帝国とヨーロッパ(1)；デヴシルメ、ミレット、宗教改革 第8回 オスマン帝国とヨーロッパ(2)；ナショナリズム、近代化、植民地支配  第9回 19世紀のイスラームと民族運動；近代イスラーム、中東諸国家体制、人工国家 第10回 パレスチナ問題(1)；反セム主義、シオニズム、バルフォア宣言 第11回 パレスチナ問題(2)；イスラエル建国、カウミーヤ、中東戦争、ワタニーヤ 第12回 宗教復興の時代；近代化、宗教的ナショナリズム、脆弱性、ジハード 第13回 戦争の連鎖と大国政治；イ・イ戦争のつけ、9.11事件、反テロ戦争 第14回 まとめ；異文化世界の共生、二元論的発想、共存カルチャー、ファジー		
教科書・参考書等	テキスト：小杉泰『イスラームとは何か』（講談社現代新書） その他、講義資料集については第1回目の授業で指示する。 また、授業では適宜ビデオを使用する。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像（ビデオ/PC/その他画像資料）		
予習・復習への アドバイス	第1回 私たちの他者認識を再考してみよう。 第2回 ジャーヒリーヤの特徴を把握しよう。 第3回 布教と迫害の関係を理解しよう。 第4回 六信の中でも神の唯一性と預言者・啓示の複数性を良く理解しよう。 第5回 五行に見られる柔軟性を発見しよう。 第6回 イスラームの平和の意味するところを再確認しよう。 第7回 オスマン帝国の繁栄・拡大を支えた制度を良く知っておこう。 第8回 オスマン帝国の衰退・解体過程と植民地支配・ナショナリズムの台頭の関係性を見ておこう。 第9回 近代イスラームの思想的特徴を把握しよう。 第10回 反セム主義とシオニズムの成立と展開について知っておこう。 第11回 アラブ諸国を巻き込む中東戦争と大国の関係を見ておこう。 第12回 イスラーム革命の背景・構造と影響、宗教復興の拡散について、考えてみよう。 第13回 激動の80年代から9.11に至る中東の変容と本当の不安定要因、テロ言説について考えよう。 第14回 これまでの講義からイスラームや中東へのイメージを再検討し、共存・共生の考えをまとめてみよう。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	期末試験（空所補充と論述形式）で評価する。但し、毎回出欠を取るのので、欠席回数に応じて総合点から減点する方式を採用する。		

メッセージ	中東・イスラーム世界について、基本的な知識を身に付けることで、現代世界の歴史的成り立ちや問題への理解が少しでも増進されれば良いと思う。
その他	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/shinyo/">http://home.hiroshima-u.ac.jp/shinyo/</a> 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54011001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	自然環境と地図[P4A,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	シゼンカンキョウトチズ		
英文授業科目名	Natural Environments and Map		
担当教員名	開発 一郎		
担当教員名 (フリガナ)	カイホツ イチロウ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総K109
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、ディスカッション、学生の発表、野外実習、作業
単位	2	週時間	2
対象学生	全学部生		
授業のキーワード	異文化交流、国際化、自然・風土・資源、自然境界、空間情報		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ名:文化の交流と多様性 位置づけ:文明・文化の誕生・発展・多様性には自然環境によって左右される面は否定できず、異文化交流にも自然環境の多様性が大きく影響している。本講義は本パッケージにおいて自然の視角から文化交流や多様性を基礎的に考察する役割を担っている。		
学習の成果	国際交流や日本の意匠および自然空間情報についての理解と教養が深まる。		
授業の目標・概要等	異文化交流に自然境界がどのように関係してきたかを地球・地域スケールでの自然環境の形成・形態の面から理解し、異文化交流の実際を陶磁器を通して学ぶ。 そのために自然環境の基本的な知識や地図の作成方法とその利用について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 自然境界:自然境界とは</li> <li>3 自然境界:地形境界</li> <li>4 自然境界:気候区分/大気境界</li> <li>5 自然境界:水文境界</li> <li>6 自然境界:ユーラシア大陸の自然境界</li> <li>7 自然境界:身近な自然境界</li> <li>8 地図:地図とは、地図の役割(室内実習、野外授業・実習)</li> <li>9 地図:地図の原理と自然環境、読図(室内実習、野外授業・実習)</li> <li>10 地図:主題図の作製(1)(野外授業・実習)</li> <li>11 地図:主題図の作製(2)(野外授業・実習)</li> <li>12 ユーラシア大陸の自然環境と異文化交流:東西文明の形成と交流</li> <li>13 ユーラシア大陸の自然環境と異文化交流:土と水と陶磁器の文化交流(1)</li> <li>14 ユーラシア大陸の自然環境と異文化交流:土と水と陶磁器の文化交流(2)</li> <li>15 おわりに</li> </ol> <p>試験・レポートについては後述の成績評価の基準などを参照</p> <p>本授業は基本的には授業計画のように実施する予定であるが、受講状況や全体の理解度他の学習効果を考慮しながら構成や授業内容を若干変更することがある。</p>		
教科書・参考書等	講義(講義中心;板書多用;プリント) 使用する視聴覚教材の種類(ビデオ・DVD・OHP・接写カメラ・パワーポイント等) 野外授業・実習、地図実習 参考書「異文化/I・BUNKA」(培風館)		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	以下のキーワードについての予習・復習が望まれる(括弧内番号が各回に対応する予定であるが、受講状況を考慮して構成を若干変更することがある。)。各回の授業計画の項目について地球科学関係の入門書および下記の参考書を参考にして予習するとともに、授業後の重要な点(指示する)を復習する。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の成り立ち (1)</li> <li>・陸地の形成 (2)、(3)</li> <li>・気候・陸水の形成 (3)、(4)、(5)</li> <li>・地図の作製 (7)</li> <li>・地図の原理と自然環境 (7)</li> <li>・三角関数、座標変換 (8)、(9)、(10)</li> </ul>		

予習・復習への アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーラシア大陸の自然環境 (11)、(12)</li> <li>・陶磁器 (13)、(14)</li> <li>・講義内容全体 (15)</li> </ul>
履修上の注意 受講条件等	地図実習では三角関数や幾何学等の数学的知識・思考が若干要求される。講義中に地図帳、定規、関数電卓を使用する。
成績評価の基準等	統一課題レポートの評価(全体の40-50%)および野外授業のレポートの評価(全体の20-30%)と授業中の確認小テスト(30-20%)による総合評価
メッセージ	野外授業・実習を行う予定である(実施計画を予備登録の段階の授業中に相談する)。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内) : <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。          回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。          なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54014001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	岩石・資源と人間[P4B,PN7]		
授業科目名 (フリガナ)	ガンセキ・シгентニンゲン		
英文授業科目名	Rocks,Resources and Human Being		
担当教員名	於保 幸正		
担当教員名 (フリガナ)	オホ ユキマサ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限,4時限	講義室	総K110
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心であるが、学生との対話あるいは学生間の討論を重要視する。
単位	2	週時間	2
対象学生	主に1年生		
授業のキーワード	文化の多様性, 自然・風土, 資源, 紛争, ホモ・サピエンス		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性 この科目は文化の形成の素材となる岩石・資源の使い方を通して文化の多様性を認識すると共に、近代化の過程で起きた、または、起きつつある問題について資源の立場から考察する。		
学習の成果	現代文明の歴史および現在の文化の成り立ちについて、ホモ・サピエンスとは何か、人類はどのようにして文化を形成してきたか、資源を通じた国際関係のあり方などの観点から学習し、現代社会の課題について理解する。また、学問の広がりについても理解する。		
授業の目標・概要等	古代から現代に至るまで人間は岩石・資源をどのように用いてきたのか、また、現在の人類社会のなかで岩石・資源はどのような役割を持っているかについて理解を深める。		
授業計画	<p>第1回 序・講義の概要</p> <p>第2回 ホモ・サピエンスの特徴</p> <p>第3-7回 文化の形成における岩石の役割と文化の地域性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 人間はどのように岩石を使ってきたか(岩石と人間, 陶器と人間),</li> <li>物はどのような経路をたどって伝わっていったか-</li> </ul> <p>第8-11回 金属資源の利用(青銅, 鉄, 金, 銀, 水銀などを使用してきた歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 青銅とは, 地球における鉄の存在意義, 古代人はどのように金属を用いてきたか, など-</li> </ul> <p>第12-14回 エネルギー-資源の活用と歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 石炭, 石油, ガスハイドレート, ウランなど-</li> </ul> <p>第15回 資源と紛争, 南極における資源(南極条約)</p> <p>数回のレポート提出を予定している。レポート作成を通して文章の書き方を学んで欲しい。 最後に試験を行う(授業内容に係る各自の意見をまとめること)</p> <p>この授業では、地理、歴史、文化、地球などを総合的に理解することが必要であり、分からないことについては各自調べること。授業の中で作業シートを配付し、理解したことを記入する。</p>		
教科書・参考書等	特に教科書はないが、「異文化/・BUNKA」(培風館)などパッケージ別科目に係る本があるので、それを読んでおいて欲しい。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, 映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	<p>第2回 我々ホモ・サピエンスの特徴について整理しておくこと。対話を通して理解を促す予定である。</p> <p>第3-7回 黒曜石, 粘土, レンガ, セラミックスにがどのように使用されてきたか, あらかじめ調べておくこと</p> <p>第8-11回 青銅, タタラ製鉄とは何か調べておくこと。アメリカの西海岸ではどうしてスペイン語の地名が存在するか, 考えておくこと。</p> <p>第12-14回 人類はどのようなエネルギー資源を使用してきたか, 将来どのような方法でエネルギーを得て行くのかまとめておくこと。</p>		
履修上の注意 受講条件等	何が分からないか, 何が問題か自問自答し, 自分なりの考え方をもち努力をして, 授業中に積極的に自分の考えを述べること。		
成績評価の基準等	レポート(20%), 作業シート(20%), 定期試験(60%)で評価を行う。		
メッセージ	世の中は知っているようで, 知らないことが多い。分からないこと, 興味を抱いたことは積極的に自分で調べよう。パッケージ別科目は自分で考えてことおもしろい。		



その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54015001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	英語圏の文学と社会[P4B,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	エイゴケンノブンガクトシャカイ		
英文授業科目名	Literature and Society of the English-speaking Countries		
担当教員名	大地 真介		
担当教員名 (フリガナ)	オオチ シンスケ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	アメリカ、文学、社会、文化、映画		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性		
学習の成果			
授業の目標・概要等	アメリカの文学作品を原作とする映画を、人種・階級・ジェンダーの観点から考察し、アメリカ文化・社会について理解を深める。具体的な作品としては、Lyman Frank Baumの『The Wonderful Wizard of Oz』、Mario Puzoの『The Godfather』、Arthur Millerの『The Crucible』、F. Scott Fitzgeraldの『The Great Gatsby』等を扱う。		
授業計画	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：レポートの出題。Lyman Frank Baumの『The Wonderful Wizard of Oz』。</p> <p>第3回：『The Wonderful Wizard of Oz』</p> <p>第4回：『The Wonderful Wizard of Oz』</p> <p>第5回：Mario Puzoの『The Godfather』</p> <p>第6回：『The Godfather』</p> <p>第7回：『The Godfather』</p> <p>第8回：Arthur Millerの『The Crucible』</p> <p>第9回：『The Crucible』</p> <p>第10回：『The Crucible』</p> <p>第11回：F. Scott Fitzgeraldの『The Great Gatsby』</p> <p>第12回：『The Great Gatsby』</p> <p>第13回：『The Great Gatsby』</p> <p>第14回：『The Matrix』</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>レポートを最後の授業までに提出する。</p>		
教科書・参考書等	奥村みさ、スーザン・K・パートン著、『映画でわかるアメリカ文化入門』、松柏社、2520円。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、映像 (DVD)		
予習・復習への アドバイス	毎回、授業で学んだことを復習すること。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	レポート (約30%)、平常点 (約40%) 及び出席率 (約30%) で評価する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所 (もみじTop内)】: <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a>		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。  
 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。  
 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54016001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	国際社会と法[P4A,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	コクサイシャカイトホウ		
英文授業科目名	International Society and Law		
担当教員名	中坂 恵美子		
担当教員名 (フリガナ)	ナカサカ エミコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総K314
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、ディスカッション、学生の発表
単位	2	週時間	2
対象学生	1, 2年生		
授業のキーワード	国際化、グローバリズム、法		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第4パッケージ:文化の交流と多様性 文化的多様性をもった諸国家から構成される国際社会を法的な側面から分析する。		
授業の目標・概要等	国際法は国家間の法である。国家はそれぞれ様々な思惑をもち立法に携わり執行を行うが、そこにはそれぞれの国の価値観や利害が反映される。受講生はそのような背景を第4パッケージの他の授業と関連付けながら当授業をうけ、国際関係のニュースを理解するのに必要な教養教育レベルの国際法の知識をつけることが目標である。		
授業計画	第1回 国際法の基礎 第2回 武力行使禁止と自衛権 第3回 集団安全保障 第4回 主権・自決権と不干渉原則 第5回 国家・政府の誕生と内戦 第6回 国家管轄権 第7回 執行管轄権の制限 第8回 国家領域 第9回 領域使用 第10回 外国人法 第11回 国際人権法 第12回 国際人道法 第13回 国際刑事法 第14回 国際経済法 第15回 質問と回答  試験実施		
教科書・参考書等	山形英郎『国際法入門(仮題)』法律文化社、2014年4月		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 配付資料, 映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	第1回～第9回で教科書の第1章～第9章、第10回～第14回で第14章～第18章を取り上げます。 教科書には、各章冒頭にQuizが、章末にはSummaryがありますので、それぞれ予習復習の際に役立ててください。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	試験(80%)及び受講態度(20%)予定。但し、受講生数等により変更の可能性あり。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a>		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。  
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。  
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。